

卒業論文の要旨

論文題目	SNS は戦争の抑止力となるか ～情報伝達技術のリトル・ビッグヒストリーの視点から～
氏名	勝山愛菜
メジャー	情報科学
<p>(要旨)</p> <p>ウクライナ戦争が始まるまで SNS は戦争で本格的に使われることはなかったが、「従来の戦争形態を一変させた」と言われるほど戦争に大きな影響を与えている。SNS の登場は、これからの戦争にどのような変化を与えるのだろうか。また、SNS が戦争の抑止力となる方法はないのだろうか。</p> <p>本稿では、狼煙から SNS までの情報伝達技術の戦争における歴史をたどりながら、SNS が戦争に与える影響と抑止力となる方法を指摘し、138 億年の歴史から見て現在がどのような時代なのかとらえることを試みた。</p> <p>戦争における情報伝達技術の歴史から、SNS は戦争に二つの変化を与えることが明らかになった。一つ目は SNS が兵器の役割を持つようになったことで、世界中の人が兵器を手に入れた状態になったことである。二つ目は情報発信と情報拡散が自由に出来るようになったことで、国家による情報統制が出来なくなったことである。また、国際平和機関である国際連盟と国際連合が戦争を防ぐことに失敗した原因や台湾のインターネットを利用して人々の声を集めることで地域問題を解決するシステムを参考にしながら、国連には世界中の人々が意見を出し合えるような環境と戦争の実態を明らかにする情報公開制度を SNS を利用して用意する必要があるということを指摘した。最後に、SNS で世界中の人とつながることが可能となった私たちの時代を 138 億年の歴史を研究するビッグヒストリーの視点からとらえた。その結果、SNS の登場は産業革命後に起きた大きな転換期であり、現在が新しいスレッシュホールドに突入していることが判明した。また、新しいスレッシュホールドでは、多くの人々が SNS にアクセスすることで、人類は俯瞰的に物事をとらえる視点と人類共通の一つの所属を得ることが出来ることがわかった。</p> <p>本稿の成果は SNS が戦争の抑止力となる方法と現在が新しいスレッシュホールドに移行していることを指摘したことである。しかし、SNS で問題になっているフェイクニュースや監視社会について調べることは出来なかった。そのため、SNS が持つ問題も検討した上で、SNS の抑止力となる方法やビッグヒストリー的視点から捉えた現在を検討することが今後の課題である。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本論文は、「戦争をなくすためにはどうしたらよいのか」という大きなテーマに果敢に取り組んだ力作である。筆者は、この人類にとっての一大問題に、長期的・俯瞰的視野をもつビッグヒストリーの方法を適用し、情報伝達技術の歴史的発展という観点から切り込んで考察を進め、「デジタル国連構想」や「第9 スレッシュホールド」といった大胆な結論を導き出している。広範な文献を渉猟しながらその成果を簡潔な記述と年表にまとめており、特に最後に付録として掲載されている「戦争における情報伝達技術の歴史年表」は、内容・ビジュアルともに優れた本論文の主要成果の一つである。全体的に卒業論文として非常に高いレベルにあるものと認められる。</p>	